

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

《令和3年 新年のご挨拶》

P 2～3. 会長、副会長、事務局長のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P 3. 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園

P 4～8. 仙台楽生園ユニットケア施設群
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、ケアハウス創快館、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンター、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 8～10. 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P 10. 仙台保育園

P 10～11. 柏木保育園

P 11～12. 富沢わかば保育園

P 12. 中山保育園

P 12. 母子生活支援施設 仙台つばさ荘

P 12. 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P 12～13. 仙台理容美容専門学校

《 令和 3 年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会 長 菅田 賢治

皆さん、明けましておめでとうございます。令和になって2度目のお正月は、天候にも恵まれそれほど寒くもなく、穏やかでゆっくり過ごされた事と思います。

さて令和3年は、母子生活支援施設仙台つばさ荘と柏木保育園の建物が築43年を迎え、母子生活支援施設仙台むつみ荘が築36年を迎える年になることから、改築計画を事業所の施設長や幹部職員を交え、仙台市行政とも相談しながら進めていきたいと思っています。

また、当法人の大きな変革としては、仙台理容美容専門学校が学校法人化を目指しております。学校法人化に変わることで、幾つかのメリットがあるため小野寺校長を中心に学校の職員が一生懸命頑張っているところです。法人としても、学校法人化に向けて全力で支援していきたいと考えております。児童部門と教育部門で大きな変化のある年ですので、皆さんのご協力を是非お願いしたいと思っています。それから、令和3年度に向けても、新たな事業計画を各事業所で作成頂きながら進めていきたいと思っていますので、重ねて職員の皆さんのご協力ご助言、宜しく願いいたします。

副会長（業務執行理事） 佐々木薫

恭賀新年、おめでとうございます。

昨年の流行語大賞は、年間大賞が「3密」で、その他にもアベノマスク、オンライン○○、GOTOキャンペーン、クラスターなど、ノミネートされたもののうちの半分以上が新型コロナウイルス関連でした。パンデミックで東京オリンピックも延期？になり、それ以上に全ての人々の活動に多大な悪影響を与え、これまでの生活を一変させる社会現象を引き起こしました。

職員の皆様におかれましては、大変ご苦勞された一年ではないかと存じますが、細心の注意を払って業務を行うなどのご配慮のおかげで、一人の感染者も出さずに済んでいることに改めて感謝を申し上げたいと思います。

当法人としても、対策委員会の設置や危機管規程の変更、感染症BCPの作成、緊急時の事務局移設場所の確保、コロナ保険の加入などを精力的に行ってきましたが、それでもまだ不十分だと考えております。法人内外を問わず相互支援体制の構築を図り、職員の皆様が安心して業務に当れるようにしていかなければなりません。そのためにも職員の意識改革が必要です。

宮城県や仙台市、県社協、老施協、全国GH協などの関係者と協議し、クラスター発生時や困難な状況が発生した場合に、法人間連携や職員の応援が受けられる仕組みづくりを行ってきましたが、さらに迅速で効果的なコロナ対策を推進していく必要があると考えています。

本年は、高齢者施設においては介護報酬改定の年で、すでに0.7%のプラス改定が決まっていますが、事業毎の増減や加算の算定はこれからですので、注意深く見守っていく必要があります。また、児童施設においては、幼保連携認定こども園への本格的な参入が始まります。

最後に、新型コロナウイルスができるだけ早く終息し、ご利用者、職員ともに普通の生活が送れるようになることを御記念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。

新年の抱負、今年は「今までの当たり前を疑う」ことから始めます。今までの常識に捉われず、仙台市社会事業協会創立100周年を見据え法人の長期目標であるブランド力の強化、法人のPRに力を入れます。まず、事務担当職員、事務局職員、辻本郷税理士事務所の協力を得て、経営状況を分析し適切な予算配分、それに伴う人員配置を行い経営の健全化を図ります。昨年導入した勤怠ソフト、給与ソフトを導入しました。そこからの上がったデータを検証し、超過勤務を出来るだけ少なく、有給休暇が出来るだけ取得しやすい、職員が仕事をしやすい環境を作って行きます。また、法人の長期計画（10年間の未来予想図）を作成し理事会からの承認を頂き活用したいと考えております。内容としては、大規模修繕工事、施設建て替え、新規事業、廃止事業、事業縮小等を盛り込んだ大型の設計図のようなものを作成します。施設の建て替え、新規事業については、時代の流れ、流行り廃りがあり、タイミングが大切なので、法人内の役職員だけでなく、専門家の意見を取り入れ柔軟に対応できる計画を立て、経営者である役員と施設長が協力体制を取り進めて行きます。それに伴い、他法人が行っているように現金の流れを正常にし、施設会計から本部会計へ効率的に資金の繰り入れが行われる仕組みを作りたいと考えております。

新参の社会福祉法人、事業所が乱立しています。我々は、それらの活動を謙虚に受け止め参考にし、染まることなく、勇み足にならぬよう、役職員と協力体制を取り飛躍の年にして行きます。

養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、近年稀に見る厄災の年でした。基礎疾患を持つ高齢者は重症化しやすく、高齢者施設でクラスターが次々に発生している状況から、職員は自分自身の感染予防に人一倍気を遣いつつ、利用者の健康状態に神経を尖らせ業務にあたりました。園内では、検温、手洗い、換気等の徹底に加え、利用者の外出や面会の制限、外部講師によるクラブ活動の休止、行事の縮小と我慢の日々が続きました。感染予防対策の一方で、感染症対策委員会において陽性者が発生した場合の対応マニュアルの作成に取り組み、リスクマネジメントに努めました。

今年は、感染予防対策の徹底の継続と共に、いざという時に迅速かつ的確な初動対応がとれるよう全職員対象の園内研修を重ねて、発生時の備えをより万全に整えていきます。また、単ごもりによる利用者の身体機能の低下と認知症の進行が懸念されるため、運動機能を維持する新たなプログラムを開始します。感染予防を徹底して行事やクラブ活動も徐々に再開し、利用者の皆さんのストレス解消を図ると共に、楽しみのある元の日常へ戻す工夫に努めてまいります。

施設環境の整備に関しては、一昨年の全居室へのエアコン設置工事に続き、昨年は改正健康増進法の施行に伴い、喫煙専用室の設置工事を行いました。感染症対策として、静養室への簡易陰圧装置の設置工事及び正面玄関へのサーマルカメラ設置等を行いました。今年は、利用者の重介護化と入浴機器の老朽化に伴い、浴室の大規模改修工事及び特殊浴槽の購入を計画しております。「良いサービスは良い経営から」を意識して経営状況の向上を図り、質の高いサービス提供に努めたいと思います。今年もご指導ご支援の程、どうぞよろしくお願い致します。

《 令和3年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負 》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスで始まり新型コロナウイルスで終わった一年でした。2月に臨時衛生委員会（各事業所の管理職+看護職員+主任相談員+主任介護士）を招集し、新型コロナウイルス対策について初めての協議を行いました。この臨時衛生委員会を新型コロナウイルス緊急対策委員会と改称し、これまで月2回平均19回の開催で、試行錯誤しながらも利用者の安全対策、家族や来園者への対応、職員への発信などを以下のように実施してきました。

8ヵ所ある出入口を正面玄関1ヶ所に限定し、消毒マット、手指消毒スプレー、マスクを設置する。体温計と記録用紙を準備し、職員はもちろん家族、業者等の来客者への健康チェックを行う。イベントや行事の縮小又は中止。職員に感染者が出た場合や感染が疑われる場合は2週間の特別休暇とし、利用者への面会はターミナル期などを除き基本的には行わない。

新型コロナウイルス発症者が出てスタッフの確保が困難になった場合は、BCP対応を行う。在宅サービスを制限して、特養長期・GH・ケアハウス等の入所系サービスへの支援や、事業所・フロア・ユニットで関わるスタッフを限定して対応する。外部の研修会への参加については、基本的には参加をしない。委員会などについては規模等に応じて参加を認める。外出については、車などを活用し可能とするが外泊は認めない。フロア・事業所ごとにフローチャートを周知する。事業所ごとに定期的な換気を実施する。

マッサージや歯科、個人ボランティアなどの外部からの出入りを中止。嘱託医師に関してはテレワーク対応。学生受け入れについては中止。新たに非接触型の体温計を購入。面会は専用室を設け予約制とし、Webでも行えるようにタブレットを購入。夏祭り・文化祭は中止とし、館内で行える小規模なものを実施。新型コロナウイルスの第2波、3波に備え、ゾーニング（清潔区域と不潔区域等）の基準を設ける。クラスターの発生に備え、相互応援に関する職員への調査を行い、併せてDVDでの新型コロナ啓発研修を実施する。

経営面においても新型コロナウイルスの影響は絶大で、感染を心配するあまり利用控え等が顕著になるなど、全サービスの稼働率が低下しました。昨年7月には、ケアハウス創快館を住宅型有料老人ホームへ転換し、楽園デイサービスセンターいこい・なごみを統合するなどの改革も行っておりますが、この新型コロナウイルスを克服しない限り経営改善は困難です。

今後も新型コロナ関連の情報収集を速やかに行い、ただ制限するのではなく利用者の尊厳と希望を最大限に考慮し、自分たちでできる対応・対策を行っていききたいと思います。

《 各事業所 新年の抱負 》

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型（多床室）施設と、平成17年12月に開所した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型（個室）施設の特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設）です。従来型はこの4月に34周年、ユニット型（個室）施設は、今年の12月1日を持ちまして、おかげ様で15周年を迎えることが出来ました。

ここ数年来、本当に“介護職員の確保”に苦悩している現実が長く続いております。人材確保の現状では、介護の養成校にも生徒数が少なく職員募集しても職員の採用に至らない、またハローワークに求人を出しても募集がないため派遣職員を採用するなど、介護人材を確保する

ことの難しさや人件費の増額による運営の厳しさも続いています。また昨今、外国人介護人材の労働力が期待されており、当法人内にも外国人介護人材の情報や検討を行う委員会が発足されました。

運営面では、昨年2月末頃からの新型コロナウイルス（コロナ禍）の影響を受け、これまでの生活や各種サービスは全て「新型コロナウイルス感染予防対策」を前提とし、利用者に対して必要な各種サービスを提供しております。また行事に関しては中止や規模縮小（ご家族参加なし）での実施。その他、ご家族の面会制限や実習生の受け入れを中止するなど、これまでに経験をしたことがない日常が今も継続中です。

また、全国各地において新型コロナウイルスの感染者が増加傾向あり、引き続き新型コロナウイルス対策の徹底が必要です。施設内からコロナ感染者を出さないためにも職員一人一人が感染予防対策への意識を強く持ち続け、勤務中や勤務外でも感染予防に取り組んでおります。

ご家族様をはじめ地域・関係者の方々には、今後も引き続き行事の中止や規模を縮小しての開催、面会状況に関しても現行と同じく制限のある中での継続となることへのご理解とご協力をお願いしたいと思っております。最後に要介護者を支える施設として、安心・安全な“生活の場”の構築と、選ばれる施設づくりを推進してまいります。

葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

地域交流事業の年間延利用者数は、喫茶レストラン「茶楽」が約2,000人、展望風呂「天空館」は約2,600人、理美容室「g g バーバー・美楽る」は約850人、葉山予防リハビリセンターは42人、葉山の森おもちゃ図書館は45人、地域交流プラザホール利用者は約330人、ボランティア活動センターは約600人、オレンジカフェは約40名の認知症の人や家族、関係者の皆様に参加をいただいております。

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、施設内の感染症対策を優先とし臨時休業や外部からの利用を制限するなどの対応を余儀なくされた結果、例年に比べ全体的に利用者が大きく減少する1年となりました。

厳しい状況が続く中、理美容室では感染症対策を万全に整えたうえで外部からのご予約を再開し、オレンジカフェの活動再開や、茶楽では仙台楽生園親睦会との共同イベントを企画し職員の利用を促すなど、その都度工夫をしながら集客につながる努力を継続してまいりました。

新型コロナウイルス感染症の流行による影響は、この先も不透明ではありますが、今後も適切な感染防止策に取り組みながら、新しい生活様式に沿った地域支援・地域交流の在り方を模索していきたいと思っております。

施設ご利用者様、地域の皆様に楽しく安心してご利用いただくために、新たな企画やサービスを展開し、地域支援・地域貢献に重点を置いた内容の充実に努め、共生社会の実現の一助になるように努力してまいります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

令和2年のグループホーム楽庵は、他事業所同様に「忍耐」の1年であったと痛感しております。楽庵の生活に関わる多くの方々の、「忍耐」が多く感じられました。国内に新型コロナウイルス感染症の危機感が高まりつつある2月の末、ご家族との面会の制限や感染に対する対応が厚生労働省から発令・通達され、それを受けたその日から、楽庵は閉鎖的な空間となりました。職員の一人一人が、自身の生活習慣を見直し、自分たちが媒介元と名なるのではないかとこの緊張感を日々抱きながら、安穏とした日々を守ること・笑顔の多い時間を紡ぐことを懸命

に行ってきてくれたと感じています。

年の後半には、ご家族様や地域とのつながりも制約の多い中ではありますが、絆を保つ機会も持つことができるようになり、多くのご理解とご協力を受けて来ていることに、改めて感謝したいと思います。最期の場所として選んで頂く機会を賜り、職員とご家族が一丸となって大切な時間を創り上げていくことができた実感もしています。

今後もこの国内情勢がいつ好転するかは、まったく見えない状態ではありますが、ご家族様・地域の皆様からの15年をという時間を費やして得た信頼を保持できるよう、「つながる」努力を重ねていきます。昨年来からテーマとしております、「楽庵ブランド」の確立と多方面への発信につきましては、本年度から様々な手段を試行していきたいと考えています。

令和3年も様々なスタッフが「エンド・オブ・ライフ・ケア」の担い手として、より一層の成長を果たせる現場教育を進めてまいります。

葉山地域包括支援センター

所 長 佐々木 薫

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの事業が縮小又は中止となり、例年に比べて訪問での相談が減少し、電話での相談が増えた1年となりました。

仙台市では、令和3年度より3年計画で新たな「介護保険事業計画」を実施する予定です。仙台市の基本目標として「高齢者が健康で生きがいを感じながら社会を支え続けるとともに、地域で安心して誰もが自分らしく暮らす事が出来る社会の実現を目指す」事を掲げています。目標に基づきながら、当センターでも活動してまいります。

具体的には、①健康寿命を延伸するとともに社会で活躍し続けるために、介護予防・健康づくりに積極的に取り組めるよう推進していきます。②ともに支え合い安心して暮らし続けるために、高齢者の尊厳保持に向けた虐待防止や成年後見制度などの権利擁護の取り組みを進めます。また医療や介護などをはじめとする様々な専門職や関係機関などの連携を図っていきます。さらに自主グループへの後方支援や新たな自主グループの育成などを図っていきます。③認知症の方が希望をもって自分らしく暮らし続ける事が出来る取り組みについては、地域における認知症に対する理解を広め、認知症や家族を支える体制づくりを進めます。

また、当センターでの高齢化率は23.5%で仙台市平均と概ね同様の傾向となっておりますが、8050問題や精神疾患を抱えたご家族への対応など、多種多様な相談が増加傾向にあります。三職種を含め、スタッフ一同、「ここで暮らしていきたい」と思えるような地域づくりを目指し、地域包括ケアの推進や共生社会の実現に寄与してまいります。

住宅型有料老人ホーム 創快館

施設長 小船 正明

ケアハウス創快館は、令和2年6月30日をもちましてケアハウスとしての役割を終え、同年7月1日より住宅型有料老人ホームに転換致しました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。

さて、創快館の一年を振り返りますと入居者様はコロナ禍の中でも健康管理と外出などの自粛生活を昨年2月末頃からスタートさせ、現在もコロナ感染予防を継続中であります。その中において元気に新年をお迎えしてくれたことに感謝するばかりであります。

運営面については、ケアハウスの頃の定員10名から、現在は11名定員に増やしました。また職員の人員配置も管理者を除き4名体制から3名体制とすることで人件費を抑制することに繋がりました。現状の課題としては、入居定員11名に対し12月時点で入居者9名であること。

原因としては、ケアハウスへ申し込みをしていた方々の取り下げや、今は施設へ入りたくない（保留）。など、コロナ禍における感染予防などの理由も含まれている状況です。

また入居者様も年齢を重ね、介護や医療を必要とする場面が多くなってきており、夜勤者のいない事業所としての不安やリスク予防が一番の課題となっている現状ではありますが、これからも基本理念である「創—自ら創造する」・「快—共に心地よい」・「館—住まいと生活」を職員が一丸となって提供し、いつ終息するか分からないコロナ感染予防対策を継続的に取り組み、安全な環境で安心して生活ができる運営を目指してまいります。

楽園デイサービスセンター

所長 天野 博美

令和2年7月に、楽園デイサービスセンターは「いこい」「なごみ」2つの事業所を統合して「楽園デイサービスセンター」と名称変更しています。開所15年目の節目を迎え、地域に根差した事業所作りを目指し、様々目標を立て、計画を立ててスタートを切りましたが、国内での新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染予防の為の行事縮小や過ごし方の変更などがあり、制限の多い生活の中、我慢・忍耐の言葉で過ごした一年だったと思います。「感染症を出さない」を目標に、まずは職員が日常の生活で予防に努めることを徹底し、ご利用者様にも、日々の健康管理やマスクの着用の協力をお願いしています。感染予防策をとることは、通常の健康管理につながるため、お陰様でご利用者様、職員共に、風邪をひくことも少なく、元気に過ごすことができています。

デイサービスセンターの様子については、過ごし方がすっかり変わりました。これまでは一つのテーブルを囲みワイワイと話が弾んだり、毎日歌の会があり、大好きな歌を歌ったり、施設群全体の行事に参加し楽しく過ごしていただいていたのが、今はテーブルに衝立を立て、一人掛けのテーブルに座っていただいたり様変わりしています。ただ、事業所理念「いこいの一時、なごみの空間、楽しみの園」は変わらないので、どのような状況下にあっても、利用される皆さんが家庭的で居心地の良い空間で、その方が望む時間を、楽しく過ごしていただけるようにすることに変わりはありません。

新しい年、コロナ禍においても、ご利用者様、ご家族様が、安心して楽園デイサービスセンターを利用していただけるよう取り組みを継続して参ります。

また通常の生活に戻り活動再開した時に、地域に向けて、地域密着型通所介護事業所としての役割を果たせるように、そちらの準備も進めてゆきたいと思っております。

葉山ケアプランセンター

所長 天野 博美

葉山ケアプランセンターでは、昨年管理者が変更し体制が変わった中で、例年通り活動計画を立てて新年度がスタートしましたが、新型コロナウイルス流行に伴い、計画を立てた内容については変更せざるを得ない部分も多くありました。ただ、ケアプランセンターの理念である『信頼と安心』は変わることはないので、どのような状況にあっても、ご利用者様・ご家族様に、安心して慣れ親しんだ地域の中での生活を継続していただけるように支援を継続してまいりました。

経験のない感染症流行にどのように立ち向かってゆけばいいのか、手探りではありましたが、感染症についての知識を得、感染予防の為の対策を講じて日々の業務に取り組みました。事業所内の環境を整えることについては、個々の机を離したり、衝立を立てることでソーシャルディスタンスを保つよう工夫し、外部を訪問する際には消毒薬や体温計を持参するなどして、感染予防に努めました。また、ご利用者様・ご家族様にも感染予防の為、一般的に言われている

健康管理の協力(検温等)、マスクの着用をお願いしています。

ケアプランセンターでは、ユニットケア施設群を利用する方々、職員に楽しんでいただけるように、毎年イルミネーションを続けています。慌ただしく過ぎ去ってゆく日々の中で、ほとと一息ついていただけるような取り組みを継続しています。感染症予防の為様々変わることが多かった昨年、変わらずに光が放たれました。いつも通りの光を見て心とませてもらったのではないかと思います。日常の仕事においても、変わらずに続けてゆかなければならないことを見極めて、ご利用者様・ご家族様の安心に繋げてゆけるように力を注いでまいります。

葉山ヘルパーセンター (介護部門・障がい部門)

所 長 天野 博美

葉山ヘルパーセンターも、他事業所と同じで、新年度に向けて計画立てていたものが、新型コロナウイルス感染拡大の為に中止、縮小、変更を余儀なくされたものが多くあり、感染予防に力を注いだ一年でした。というのも、訪問介護員は在宅で生活するご利用者様を訪問してサービス提供するわけですが、一日数件のお宅を訪問するため、介護員が感染源とならない為に人一倍の注意を払う必要があります。また、市内で感染が確認された他の事業所を利用していた方(濃厚接触者)にサービス提供をすることもあり、感染予防策については、慎重すぎるということがないと繰り返し訪問介護員に伝えた一年でありました。

障がい部門においては、活動を自粛される方が多く稼働の低下が著しく、中々活動の再開に繋がらないご利用者も多く、苦慮しております。

ヘルパーセンターで、長く続けてきた月一回の勉強会も、実施を見合わせています。変わりに、訪問介護員に伝えたいことをサ責が中心となって「ヘルパー通信」を作成して配布しています。早く皆で集まり対面研修を再開したいと思えます。

訪問介護事業所の事業計画の中には「介護職員の育成」という項目も入っています。昨年は中々取り組み出来ずにいた部分ではありますが、今後長く活動を続けてゆくために、今年は若手の訪問介護員の採用と、次世代の育成にも力を注いでゆきたいと思えます。

今年も新型コロナウイルスの感染流行は続くでしょうが、そのような中であっても、ご利用者様、ご家族様が、住み慣れた地域の中で安心して生活を継続できるようにお手伝いを継続して参ります。また、身近にいるヘルパーが在宅部門のつなぎ役となってゆけるように、研鑽を重ねてゆきたいと思えます。

沖野老人福祉センター

館 長 植木 祐子

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。

昨年は華やかなオリンピックムードから一転、新型コロナウイルス感染症への対策中心の年となりました。市内全老人福祉センターが3月から臨時休館となり、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」に則り6月2日に再開しました。一部教室やサークルは未だ再開できずにいますが、それでも約3ヶ月もの間、深閑としていた館内に笑顔や歓声が戻った日の喜びは、けして忘れることができません。現在、感染防止対策として利用者の皆様にはご自宅での検温ならびに非接触型体温計による入館時の検温等、健康チェックを徹底している他、アルコール手指消毒や定時の換気、ソーシャルディスタンスを保つ座席、入浴時間の制限等ご理解ご協力をいただいています。また一つの活動が終了する都度、机・イス・ドア・備品類を全て消毒し、次の活動時間迄窓を開放して換気する等、職員一丸となって取り組んでいます。

センター事業では、「心身スッキリ体操」「脳いきいきクラブ」等人数制限と時間短縮して行

っている他、「歴史講座/調査からわかる正宗の城～仙台城」や「絵手紙講座/干支の年賀状作り」等の企画を実施しました。また、市民センター共催の「折り紙ボランティア養成講座」の他沖野地域包括支援センター、沖野内科医院、六郷交番等、地域の関係機関のご協力により規模は縮小しつつ、各種講座や教室を実施しました。今後も感染防止対策を徹底し新しい生活様式を踏まえ、皆様が安心して集える施設運営を目指して参ります。

また、今期の指定管理最終年度である今年は、令和4年度に予定される老人福祉センター大規模改修工事に向けた建築計画年度でもあります。仙台市ならびに法人事務局、隣接する市民センターとも連携・協働して、滞りなく準備を進めて行きたいと思っております。

沖野デイサービスセンター

所 長 植木 祐子

昨年は、新型コロナウイルス感染症予防のため、当センターでも様々な感染防止対策を講じて参りました。送迎時の対策として、車両に飛沫防止用のシートを設置した他、冬期間中も暖房で車内を暖めつつ一部窓を開け走行し常時換気を行っています。送迎車両への乗車前・入館時はもちろん、レクリエーションや運動等活動を終える都度手指消毒を行い利用者の皆様の健康管理を徹底する為、自宅検温の他にセンター到着後と、午後の時間帯にも検温と体調確認を行っています。館内の活動スペースは、ソーシャルディスタンスを保つため、通常使用している食堂兼ホールその他、図書コーナー等も活用し、少人数のグループで広くスペースを確保できるように工夫しております。利用者ならびにご家族の皆様にも、ご自宅での検温、活動中のマスク着用、こまめな手洗いと消毒、定期的な換気等についてご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

センターのプログラムについては、カラオケや民謡等、飛沫感染防止の為見合わせる活動があったり、お祭りや大勢人が集まるイベントへの参加も制限を余儀なくされていますがこのような中でも利用者の皆様に楽しんでいただけるよう、様々工夫しながら取り組みました。『沖野農園』の活動では、土を耕すところから始まり、草とり・種まき・肥料・水やり等行い、収穫の喜びを皆様と分かち合うことができました。館内の装飾や季節ごとの製作活動も、一人ひとりの個性を活かし世界に一つしかないオリジナリティあふれる作品を作成して、その成果を仙台市シルバー創作展や沖野市民活動発表会でお披露目することができました。新型コロナウイルス感染症の1日も早い終息を願いつつ、これからも感染防止対策を継続し、創意工夫して、利用者の皆様が安全に楽しくサービスをご利用いただけるよう努めてまいります。

沖野居宅介護支援センター

所 長 植木 祐子

昨年は職員の退職に伴い、4月より所長の私と管理者兼主任介護支援専門員1名の体制となりました。最小限の人員体制の中、前任者からの利用者引継ぎや、他事業所との連携等、新規利用者の獲得とより質の高いケアマネジメントを事業所目標に掲げて取り組み始めましたが、時期を同じくして新型コロナウイルス感染症拡大の影響が出て参りました。

感染予防の為、マスク着用やこまめな手洗い・手指消毒を行いつつ、利用者訪問やモニタリング等実施していましたが、感染防止の観点から、一定期間ご自宅を訪問しての面談及び医療機関や関係機関への訪問も制限される状況となり、その間は電話やメール、書類等、必要に応じて様々な工夫をしながら対応致しました。居宅介護支援センターとして、必須の研修や、地域内のケア連絡会、情報交換会等についても中止が相次ぎ、現在オンライン研修等の機会を活用し、情報共有と知識・技術の向上に努めております。

感染予防対策については、業務時間中に限らず、プライベートでの活動時間や自宅での生活時間帯でも徹底して行う必要がある為、職員自らの健康管理とストレスマネジメントが、コロナ禍を乗り切る為の大切な要素となりました。

このような厳しい状況の中にもありますが、お陰様で圏域の地域包括支援センター等より継続的に新規利用者の受入れ相談や紹介をいただき、登録人数も月平均 35 名を維持している他、困難な課題を有するケースについても、当センター指定にてご相談いただく機会が増えて参りました。これからも新しい生活様式に則った事業運営の在り方を模索しつつ実践と研鑽を重ね、地域の皆様からの更なる信頼獲得と、高齢者福祉に寄与するよう努めたいと思います。

仙台保育園

園長 高野 誠

あけましておめでとうございます。今年には仙台保育園にとって大きな変革の年となります。昭和 13 年から続いた仙台保育園は閉園となり新たに幼保連携型認定こども園仙台保育園として生まれ変わります。施設の形態が児童福祉施設から学校及び保育施設となり管轄が厚生労働省から文部科学省となります。今までの保育園で言われる 0, 1, 2 歳児には保育を、3, 4, 5 歳児には教育をという認識が変わりますが、今まで保育園で長い間培ってきた養護と教育を軸に園児の最善の利益を守りながら、より主体的に考えて動ける子ども像を目指して邁進していく所存です。

世の中は新型コロナの感染拡大に歯止めが効かず、大変な状況が続いています。あくまでも例えですが、下手をすればテレワークで仕事が済んでしまうように助け合う、力を合わせるなど相手を思いやる事よりも個人レベルの成果ばかりが求められるような世の中になってしまったら、いろいろと決められていた方があれこれ考えなくて楽だという方向には進んでしまいます。だからこそ、本来、人と人が関わって過ごす事の大切さをいかに子どもたちに伝えていけるかがこれからの大きな課題と言えるでしょう。

毎年、同じことの繰り返しとなってしまいますが、これからも仙台保育園は、施設形態が変わろうとも休日保育や病児・病後児保育を行っているからこそ、お互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にする保育が必要とされます。子どもたちにそういう大人の姿を見せつつ、常に基本に立ち返り、子ども優先という姿勢を忘れずにいたいと思います。

どうぞ、今年もよろしく願いいたします。

柏木保育園

園長 高橋 すい子

明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナ感染症の拡大を防ぐ為の安全措置を講じながら保育園運営に努めてまいりました。いつもですと新たな気持ちに乗せて“今年はこのやる！”と意気込むものと思っておりますが、昨年から今年にかけて二の足を踏む状態になっております。

新型コロナウイルスの発生による新たな生活様式や行動制限が身を守るためのものとはいえ、様々な部分へ影を落としております。

令和 2 年 4 月 5 月は仙台市の登園自粛要請を受け園児の 3 分の 2 が登園自粛により欠席をするときも有りましたが収益には影響なく円滑に運営ができました。

感染対策として手指消毒、職員や保護者のマスク着用、検温、園内外の設備等玩具や絵本も毎日アルコール消毒を行い、職員がマスクを着用する事で子どもたちへ悪影響を及ぼさない様にクリアマスクを使用するなどの配慮もしてきました。

大変残念ではありましたが行事の見直しを余儀なくされ、大きな行事で有る、夏祭りや運動会、発表会等を園児だけで実施しました。こどもたちの取り組みや成長した姿を保護者にリア

ルタイムで伝えることが出来ず本当に残念でした。但しそれに代わるものとして日頃の保育園での生活の様子や可愛らしい子どもだけの行事写真をドキュメンテーションとして紙面に描き掲示、保護者に伝えました。又 DVD を作成し配るなどの配慮もおこないました。

世界的規模で流行しているコロナですが収束の兆しが見えず拡大の方向にある今、いままでのような行事の持ち方では対応しかねます。手探りで行事の持ち方を考え実施してきましたが、今後の見通しが立つことを願っております。これから生きていく上で大事な基礎を築くこの時期に関わる責任と使命感を持ちながら取り組んで参ります。

今年は丑年です。誠実に事を運んで行ける様、職員一同が心一つに取り組んでいく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

富沢わかば保育園

園長 木村 裕子

昨年の12月にこの時期に仙台ではあまり経験のない雪に驚きましたが、思いがけない雪で子ども達は大喜び、連日園庭で雪遊びをする事ができました。

新年の1月元旦に「今年はどんな年になるだろう！」と、ふと思いました。思えば昨年の2月から始まったコロナウイルス感染が果たしてどうなるのだろうか。ワクチン接種等々の事を考えてしまいます。終息してほしいと願っているのは皆同じだと思います。

今年は夏にオリンピック、パラリンピックが開催される予定です。選手の方々はもちろんですが応援する私たち自身も勇気をもらいながらコロナにうち勝ちたいものです。

また、東日本大震災からまもなく10年目を迎えます。震災の教訓を踏まえ、マニュアルの再確認をしながら備蓄等で不足している物などを補充して、より備えたいと思います。

保育士不足であった昨年でしたが、職員の協力で乗り切ってきた数ヶ月でしたが、今年は2名の保育士が復帰してくるので待ち遠しいです。わかば保育園は開園してから今年で30年目になります。今まで培ってきたことを引き続き行っていきながら、安心・安全を第一に毎日元気に生活できるように努めていきます。

本年もよろしく願いいたします。

中山保育園

園長 庄子 美智子

昨年12月の例年にないほどの寒さと雪にはびっくりしましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の年始は新型コロナウイルスの感染拡大予防を考え遠くの外出は控え、家にいた方も多かったのではないのでしょうか？

昨年の今頃は、令和2年がこんな一年になろうとは誰も想像しなかったと思います。昨年の一月末頃から、隣の国で感染症が流行しているらしい位の事でまさかこんなに広がるとは…。現在も予断を許さない状況です。昨年度は年度初めから消毒や掃除、保育の環境も変化し行事においても縮小や中止を余儀なくされました。そんな中、子ども達にとって？保護者にとって？何かもっといい形のものはないかと試行錯誤を重ねた一年でした。その中で大切なものや確かなものが見えてきた一年でもありました。

その一年を踏まえつつ、感染症予防を土台に子どもの命と健康を守り安全な環境、安心できる信頼関係を築き、保護者とのより良い関係を保ち子どもの成長・発達を見据えながら、常に保育の向上を考え職員達と話し合いを重ねていきます。行事においては昨年度のような縮小や中止が続くと思いますので、子ども達や保護者にとって大切にしなければならないことを見直

し保育を進めていきたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

仙台つばさ荘

施設長 菅田 賢治

新年、明けましておめでとうござひます。

平成28年に児童福祉法が改正され、その理念が大きく変化いたしました。それは、家庭養育を最優先とし施設養育は、最終手段と位置づけられたのです。母子生活支援施設は、戦後一貫して家庭養育のなかで、養育される子どもと養育を行う母親への支援を進めてきました。現在、都道府県では社会的養育の推進計画の策定を終了し、その計画推進に向けて動いています。仙台つばさ荘も昨年に引き続き今年も、その活動を強めてまいりたいと思ひます。また日々の支援事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

新年あけましておめでとうござひます。

昨年ひ新型コロナウイルス感染症の影響で、日常生活、学校生活、施設行事など、全てが一変してしまいました。今年ひ少しずつでも安心して生活できる環境に戻って欲しいと祈るばかりです。

近年、入所期間が短くなる傾向にあり、不安を抱えながら退所する世帯も少なくありません。そんな家族が地域社会の中で安心して生活できるよう、退所後も継続して支援する「アフターケア」の充実に取り組みます。また、心と体が傷つき学校へ行くことができない子ども達にとって、むつみ荘が安心して自分を表現できる場となるような居場所作りを行い、前へ進める力を蓄えられるような支援に力を入れていきます。保護者の皆様とは、日常のちょっとした会話を大切にしながら仕事や子育ての大変さ、子どもの成長を分かち合いながら過ごしやすいむつみ荘作りひ努めてまいります。

本年もどうぞ宜しくお願ひいたします。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうござひます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

昨年ひ、「新型コロナウイルス感染症」が世界中に蔓延し、日本社会全体も大きな影響を受け、私たちの生活も一変しました。今や「3密」を避け、検温、マスクの着用、うがい、手指の消毒、換気等は日常の「当たり前」になっています。本校も4月中旬から臨時休校にし、授業再開したのは6月1日からでした。その影響で夏休みを短縮して授業を行い、学校行事も中止や延期、内容の変更等を強いられ、学生にとっては大変な年になりました。私たち教職員も感染対策をしっかりと取りながら何とか学生達のモチベーションを維持するために、行事を中止せず形を変えてでも実施できるよう、知恵を絞りながら可能な範囲で実施してきました。新しい年を迎え、まだまだ予断を許さない新型コロナウイルス感染症ですが、昨年ひ様々な経験が今年ひすべての学事にいい形で活かされるものと考えています。

今年ひ、昨年同様「新型コロナウイルス感染症対策」を十分取りながら、今まで得た経験を

活かし、さらに充実した授業や行事等が実施できるよう努めていきたいと思ひます。また、昨年中止になつた全国理容美容学生技術大会が、今年は9月28日「パシフィコ横浜」で理容美容の世界大会と同時期に同じ会場で開催されることになり、一昨年に続き今年も各種目で上位入賞を果たしたいと思ひます。代表枠が縮小され狭き門となりますが、全国大会出場を目指し学生たちはその願ひを叶えてくれるものと信じています。また、毎年の課題になりますが入学者の減少をいかにくい止めていくか、その対策として今年から本校独自の奨学（特待）制度を設け、その対象者に対して授業料や入学金の免除を行いました。その結果、昨年より30数名の入学者増となる予定です。更に他の理容美容学校では実施していない、学業優秀で生活態度・出席状況等が良好な在校生に対して、授業料の免除制度を設けました。昨年は新型コロナウイルス感染症渦の中で広報活動もなかなかできませんでしたが、今年はこの2つの免除制度を強調して入学者増を目指し、広報活動していきたいと考えています。

結びに、1日も早く新型コロナウイルス感染症がおさまり平静な生活に戻ることを願ひ、昨年同様「感染対策」をしっかり取りながら教職員全員の力を合わせて学校運営・教育を行っていききたいと思ひます。

本年もどうぞよろしくお願ひ致します。